

令和7年度農作物病虫害発生予察技術資料第8号

令和8年(2026年)3月17日
山口県病虫害防除所

果樹カメムシ類の越冬状況と今後の防除対策について

2月に調査した果樹カメムシ類(クサギカメムシ)の越冬量は、平年の約3倍と多い状況です。春からの越冬成虫の飛来に注意してください。

1 対象作物 果樹全般(ビワ、ウメ、モモ、カンキツ、ナシ、リンゴ等)

2 病虫害名 果樹カメムシ類

3 発生状況

- (1) クサギカメムシの隙間トラップによる越冬量調査(10か所)では、1トラップ当たり88.9頭(平年30.2頭)で平年に比べ多かった(図)。
- (2) 2月24日に福岡管区気象台より発表された向こう3か月の気象予報では、九州北部地方の気温は高いとされており、発生時期は早く、発生は多くなると予想される。

4 今後の予想(越冬世代成虫)

- (1) 発生量 多
- (2) 発生時期(飛来時期) 4~6月

5 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類の飛来時期や量は、地域や園地による差が大きいため、夜間に園地内または園地周辺の外灯等を確認し、カメムシ類の飛来を確認したら速やかに農薬の散布を行う。
- (2) 過去に被害の発生が多かった園地では特に発生状況に注意する。
- (3) カンキツでは、開花期や幼果時期にも吸汁被害が発生することがあるため注意する。
- (4) 施設栽培等では、防虫ネット(網目4mm以下)を設置することで、侵入を防止する。また、設置済の場合もネットの破損がないか点検し、破損している場合は速やかに修繕する。
- (5) 無袋栽培(ナシ等)では、地域一斉に薬剤散布を実施すると防除効果が高まる。

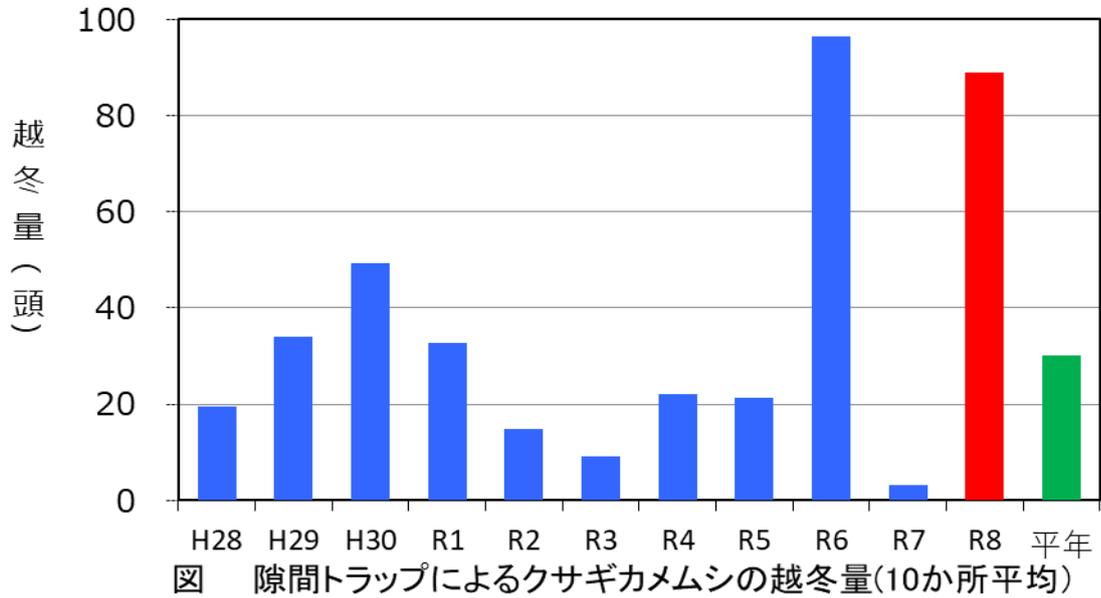
6 防除上注意すべき事項

- (1) 本年は、果樹カメムシ類の防除回数が増えることが予想されるため、薬剤選定をする際は薬剤成分ごとの使用回数に留意する。
- (2) 薬剤散布の際は、農薬使用基準を遵守し、周辺作物への飛散を防止するとともにミ

ツバチ等に危害を及ぼすことがないように十分注意する。

(3) 今後の農作物病虫害発生予察情報を病虫害防除所のホームページなどで確認する。

(<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22321.html>)



(主要な果樹カメムシ類)



チャバネアオカメムシ



ツヤアオカメムシ



クサギカメムシ

(果樹カメムシ類の被害)



ナシの被害



モモの被害